

①学校名:	名古屋市立大学 大学院(公立)		②所在地:	名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地			
③課程名:	看護学研究科博士前期課程看護学領域 周手術期看護学 周麻酔期看護師教育コース		④正規課程/ 履修証明プロ グラム:	正規課程	⑤開設年月日:	令和5年4月1日	
⑥責任者:	看護学研究科長 明石恵子		⑦定員:	博士前期課程看護学領域12人	⑧期間:	2年	
⑨申請する課程 の目的・概要:	周麻酔期看護師(Perianesthesia Nurse: PAN)は、麻酔科医と協働して周麻酔期医療の安全と質の保障・向上を目指す存在である。手術中の麻酔と術前・術後管理のみならず、救急・集中治療、慢性疼痛治療(ペインクリニック)、無痛分娩、終末期医療などでの活躍が期待されている。 本コースの目的は、そのような周麻酔期看護師の養成である。そのために、看護学を基盤として、麻酔に必要な解剖学、生理学、薬理学、麻酔・手術侵襲に対する管理と合併症予防、臨床推論、医療安全などの専門的知識と技術、患者の全身管理方法を学修し、麻酔に関わる包括的ケアの実践能力を修得する。さらに、10区分の特定行為を修得する。						
⑩10テーマへの 該当	7 医療・介護	⑪履修資格:	学校教育法第83条に定める大学を卒業した者および卒業見込みの者 あるいは本学研究科が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認 めた者。 上記の条件に加えて、看護師として5年以上の実務経験をもつ者。				
⑫対象とする職 業の種類:	看護師						
⑬身に付けること のできる能力:	(身に付けられる知識、技術、技能) 1.麻酔・手術を受ける患者の管理に必要な解剖学、生理学、薬理学、麻酔・手術侵襲に対する管理と合併症予防、臨床推論、医療安全などの専門的知識と技術および患者の全身管理方法 2.呼吸器管理、動脈血液ガス分析、循環動態に係る薬剤投与、術後疼痛管理、栄養に係るカテーテル管理、精神及び神経症状に係る薬剤投与などの特定行為を含む治療管理とケアを安全かつ確実に実施するための基礎的知識と技術			(得られる能力) 包括的な健康アセスメントと症状マネジメントの能力 患者・家族への教育能力 倫理調整能力 コンサルテーション能力 多職種との協働・連携に必要な調整力			
⑭教育課程:	「生理系医学基礎」「臨床医学概論」「災害・医療特論Ⅰ」「フィジカルアセスメント」「フィジカルイグザミネーション」「病態生理学」「臨床薬理学」「臨床推論」「医療安全学/特定行為実践」「看護倫理学」では、双方向の討論やモデルを用いた実践的演習を取り入れて、周麻酔期の患者管理および特定行為の実践に必須の基礎的な知識と技術を修得する。 「周手術期看護学特論」「周手術期看護学演習」では、手術・麻酔や周手術期看護を取り巻く状況を理解し、手術・麻酔を受ける患者の安全・安楽と早期回復のための全身評価・全身管理方法、看護に必要な知識、対応方法を修得する。 「周麻酔期看護学特論Ⅰ・Ⅱ」では、麻酔を受ける患者に使用される薬剤および各種麻酔方法を理解し、麻酔と外科的侵襲で生じる生体反応に対する安定化の方策、臨床判断能力、問題解決能力を修得する。 「周麻酔期看護学演習Ⅰ・Ⅱ」「診療看護演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」では、ケアとキュアを統合した高度な看護を提供するために、講義によって必要な知識を修得後、演習として①ペーパーシミュレーションまたはスキルシミュレーション、②手順書作成、③文献やガイドライン等の自己学修を行い、最後に試験を受けることで、特定行為を含む治療管理とケアを安全かつ確実に実施するための基礎的知識と技術を修得する。 「周麻酔期看護学実習Ⅰ・Ⅱ」では、多様な臨床場面において臨床推論を深め、特定行為を含めた看護実践を安全に実践・応用展開する実践力を養う。「周麻酔期看護学実習Ⅲ」では、医学的視点と看護的視点を活かし、対象を全人的に捉え、高度実践看護師として看護実践を安全に実践・応用・展開する実践力を養う。また、チーム医療の中で周麻酔期看護師として安全に包括的指示で行うべき範囲を見極め、その役割と協働について考察する。これらの実習は名古屋市立大学医学部の附属病院群または関連病院で実施し、各病院には看護師と医師の実習指導者を配置する。 「看護研究方法論」での研究に関する基本的知識をもとに、関心のあるテーマに沿って研究を行い「周手術期看護学課題研究」として論文を作成する。						
⑮修了要件(修了 授業時数等):	51単位以上の修得						
⑯修了時に付与され る学位・資格等:	修士(看護学) 周麻酔期看護医学会で検討されている周麻酔期看護師認定資格審査の受験資格						
⑰総授業時数:	67	単位	⑱要件該当 授業時数:	65単位	該当 要件	⑲要件該当授業時数 /総授業時数:	97 %

⑳成績評価の方法:	講義・演習は、プレゼンテーションや議論など授業への参加状況、筆記試験、実技演習における観察評価、レポートによって評価する。 実習は、症例検討・実践報告に基づく到達目標の達成度、直接指導時の実践評価、実習への取り組み、レポートなどで総合的に評価する。 課題研究は、口頭試問によって最終試験を行い、評価基準に沿って可否を判定する。
㉑自己点検・評価の方法:	学校教育法第109条第1項に定める評価を実施する。 研究科内の自己点検・評価委員会において、受講状況や授業評価アンケート、修了者数、カリキュラム評価委員会から提出された評価報告書等に基づき、本プログラムの成果の検証や評価を毎年行い、適宜プログラムを改善する。また、当該検証・評価結果はホームページで公表する。
㉒修了者の状況に係る効果検証の方法:	修了者は、周麻酔期看護医学会による周麻酔期看護師認定資格審査を受けるため、その受験者数、合格者数によってプログラムの効果検証を行う。
㉓企業等の意見を取り入れる仕組み:	(教育課程の編成) 看護学研究科の教員以外の者複数を含むカリキュラム評価委員会を組織し、教育課程に対する評価を委嘱する。
	(自己点検・評価) 看護学研究科の教員以外の者複数を含むカリキュラム評価委員会を組織し、教育効果に対する評価を委嘱する。
㉔社会人が受講しやすい工夫:	一部の科目で、オンライン受講、オンデマンド受講、集中講義、夜間開講を行う。 長期履修制度、科目等履修生制度、他大学での修得単位の認定を取り入れている。 実習や課題研究における個別指導は、学生の都合に合わせて日時を決め、遠隔会議システムも活用する。 大学に設置された保育所は、大学院生の子どもも入所可能である。
㉕ホームページ:	https://www.nagoya-cu.ac.jp/nurse/academics/laboratory/critical-care-57200/

事務担当者名:	豊島 行男	担当部署:	名古屋市立大学看護学部
事務担当者連絡先:	(電話番号) 052-853-8037 (担当係E-mail) nursijimu@sec.nagoya-cu.ac.jp (担当者E-mail) toyoshima-yukio@sec.nagoya-cu.ac.jp		

*パンフレット等の申請する課程の概要が掲載された資料を添付してください。

*様式に記載いただいた内容と欄外の「※集計用データ(文部科学省使用)」に記載の内容が、一致しているかを必ずご確認ください。